

タイトル「**2023年度スポーツ科学部(公開用)**」、フォルダ「**スポーツ科学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	SSCS2323		
科目名	アダプテッド・スポーツ		
担当教員	近藤 克之		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	水 3		
講義室	1312	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門科目		
科目中分類	専門基礎		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1 - E〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4 - F〔探究力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP6 - K〔表現力・対話力〕 文章および口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7 - L〔協働力・牽引力〕 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E1 学識と専門技能 — 50% F1 探究と論拠 — 10% F2 課題解決 — 10% K2 オーラルコミュニケーション — 20% L1 チームワーク — 10%		
教員の実務経験	2010年から日本パラ陸上競技連盟強化委員として、障がいのある選手に対するサポート事業に携わってきました。2012年のロンドンパラリンピックには、重度視覚障がい短距離選手のガイドランナーとして出場しました。2016年のリオデジャネイロパラリンピックには日本代表競技役員（コーチ）として参加しました。2017年にはカンボジアの第1回障がい者陸上競技大会の開催にも携わりました。その他の国際競技会にも選手帯同し、様々な国における障がいのある人たちが行うスポーツを観察してきました。国内においては、日本スポーツ振興センター（JSC）や東京都障がい者スポーツ協会主催の発掘事業、関東地区のパラ陸上競技の普及振興にも協力してきました。障がいのある選手のみならず、多くの人がスポーツを行うためには、身近に活用できる施設・環境が整備されていることの重要性とそれらの人たちを支援する人的資源の確保が重要であることも認識してきました。これらの経験を踏まえ、学生が実社会で役立てられるような考えを養えるよう本科目を展開していきます（第1回から15回）。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 2 進期期 ～ 3 発展期		
科目概要・キーワード	本科目では、対象となるスポーツ種目の特徴や他種目との近似点や相違点、また、設定されている動作やその根拠、動作実行のためのトレーニング方法など、実践を通じて理解を深めます。また、運動の得手不得手や年齢、障がいの有無など、様々な人が行うことのできるスポーツについて考察していきます。具体的には、ルールや用具を工夫したゲームを実践し、様々な立場の人が実施可能なスポーツについて理解を深めます。授業形態は、講義・実技形式により		

	行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ※アダプテッド・スポーツ（adapted sports）とは障がいのある人や高齢者、体力の低い人などがスポーツを行う際に、ルールや器具をその人に適合させてスポーツを展開させるものです。 ■キーワード：アダプテッド・スポーツ、障がい者スポーツ、パラリンピックスポーツ						
授業の趣旨	■副題 アダプテッド・スポーツを通して、人間の可能性について考えよう。 ■授業の目的 本授業の目的は、受講生がアダプテッド・スポーツに関する基本的な知識と実践力を修得することであり、アダプテッド・スポーツに関する基本的な知識を基に、様々な人々が実施可能なスポーツについて実践的に理解を深めることを目指します。また、障がい者スポーツ指導員資格を取得し、障がいのある人がスポーツを行う際に、支援を行うことができる人材を育成することも目的となります。 ■授業のポイント 障がいのある人や、高齢者、体力の低い人を含め多くの人がスポーツを一緒に楽しむためには、既存のルールを変化させたり、用具を工夫することなどが求められます。また、限られた環境でスポーツを行う際には、何かを代用するなど、創意工夫が求められます。本授業では、特に障がいのある人がスポーツを行うことを想定し、競技用の車いすを用いたスポーツや、視覚障がいのある人がスポーツを行うこと、脳性まひのある人が行うことができるスポーツ、装具を着用して行うスポーツなどを学生が模擬的に体験する内容が含まれます。学生自身が、これらのスポーツを模擬的に実施することによって、普段行っている身体活動を捉え直し、新たな身体感覚を触発させることを重要視しています。できないことがあれば、何を工夫すればできるようになるのか、どのように行えば、上達するのかなどを考察することができれば、仮に指導する立場に立った時、自身の経験を活かして、具体的な提案をすることができる可能性が広がります。柔軟な考えや取り組む姿勢が、本科目を受講する際に求められます。						
総合到達目標	■障がいのある人を含め、様々な人がスポーツを実施できる環境や方法を提供するために、アダプテッド・スポーツを実践しながら（模擬体験を含め）、それらに関連する基礎的知識を修得する。 ・障がいのある人や高齢者、体力の低い人たちがスポーツを楽しむためには、それらの人々を取り巻く環境など複合的な要因が上手に重なり合うことが重要であることを事例を挙げて説明できる。【知識】（第1回から第15回） ・障がいのある人や高齢者、体力の低い人に限らず多くの人が様々な（少しの）工夫を凝らすことによって、「同じスポーツ」に参加できるよう準備できる。【技能】（第3回から第13回） ・様々なアダプテッド・スポーツに参加できる。【態度】（第6回から第12回）						
成績評価方法	■授業シート10回（70%）：適用ループリック E1・F1・F2・K2・L1 （評価の観点）予習を踏まえ、授業中に実践した内容を正確に記述し、自身の運動感覚や他者との関係性を捉え、反省的実践の立場から今後の実践に対する考察が記入されているか確認します。 （フィードバックの方法）次授業時にコメントを添えて返却します。 ■小レポート2回（30%）：適用ループリック F1・F2・L1 （評価の観点）アダプテッド・スポーツに対する自身の考えを整理し、様々な人がスポーツを実践するための考えが整理できているか確認します。 （フィードバックの方法）次授業時にコメントを添えて返却します。						
履修条件	特にありません。						
履修上の注意点	日本障がい者スポーツ協会公認 初級障がい者スポーツ指導員資格の取得を希望する学生は、必要科目となります。						
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ アダプテッド・スポーツの考え方（ガイダンス含む） ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、本授業の目的、方法などのガイダンス的内容を中心とし、アダプテッド・スポーツの概要を説明できるようになる（E1）。 ③予 習（120分） インターネット検索機能を利用し「アダプテッド・スポーツ」と検索（入力）し、検索結果のうち1つを選定し、その内容を熟読してくる。 ④復 習（120分） 授業内資料を再読する。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 障がい者スポーツとアダプテッド・スポーツの発展過程と現状 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ アダプテッド・スポーツの考え方（ガイダンス含む） ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、本授業の目的、方法などのガイダンス的内容を中心とし、アダプテッド・スポーツの概要を説明できるようになる（E1）。 ③予 習（120分） インターネット検索機能を利用し「アダプテッド・スポーツ」と検索（入力）し、検索結果のうち1つを選定し、その内容を熟読してくる。 ④復 習（120分） 授業内資料を再読する。	2	①授業テーマ 障がい者スポーツとアダプテッド・スポーツの発展過程と現状
回	内容						
1	①授業テーマ アダプテッド・スポーツの考え方（ガイダンス含む） ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、本授業の目的、方法などのガイダンス的内容を中心とし、アダプテッド・スポーツの概要を説明できるようになる（E1）。 ③予 習（120分） インターネット検索機能を利用し「アダプテッド・スポーツ」と検索（入力）し、検索結果のうち1つを選定し、その内容を熟読してくる。 ④復 習（120分） 授業内資料を再読する。						
2	①授業テーマ 障がい者スポーツとアダプテッド・スポーツの発展過程と現状						

	②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、障がい者スポーツとアダプテッド・スポーツが発展してきた過程と現状を両側面から捉え、障がいのある人などがスポーツを行う意義や効果、もしくはその理念を説明できるようになる（E1、F1）。 ③予習（120分） 第1回目の授業で配布された資料を熟読してくる。 ④復習（120分） 国際的にはアダプテッド・スポーツに類似（関連）した用語（単語）はいくつあるか調べてみる。
3	①授業テーマ 我が国における障がい者などに関連した施策と今後の動向（国際比較を含めて） ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、障がい者や高齢者に対する国の施策を体系的に確認するとともに、スポーツとの関連性を説明できるようになる（E1）。また、それらの人たちがスポーツを支える仕組み（ボランティア等）についても説明できるようになる（F2、L1）。これらを基に国際比較などを通して今後の動向について考察できるようになる（E1、F1）。 ③予習（120分） 第2回目の授業で配布された資料を熟読してくる。 ④復習（120分） 新聞や雑誌などから、障がい者や高齢者などに対する国や自治体の施策やサービスがスポーツ実践の動機付けを高めた事例を見つけてくる（スポーツ実践への障壁となっている事例でも可）。
4	①授業テーマ スポーツ大会やレクリエーション大会などの現状 ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、特に全国障がい者スポーツ大会について、歴史や開催目的、実施競技など一般競技とは異なる点（ルールや用具、クラス分け）などを説明できるようになる（E1）。また、この大会を通して参加者がスポーツ参加していく動機付けを高めていることを説明できるようになる（F1、F2）。また、その他のスポーツ大会やレクリエーション大会などの開催事例も概観する（E1）。第1回目から第4回目の授業内容を基に、小レポート（1回目）課題を実施する（次授業時にコメントを添えて返却する）。 ③予習（120分） 第3回目の授業で配布された資料を熟読してくる。 ④復習（120分） 自身の身近（居住地近辺）で、本授業で取り上げたような大会が開催されているかどうか確認してみる。
5	①授業テーマ 身体障がいの理解とスポーツ（視覚障がい）① ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、視覚障がいの主な特性を学び、その特性に配慮しながら安全にスポーツを実施できるように、基本的な知識内容を説明できるようになる（E1、F1）。適宜、視聴覚教材を用いる。また用具の工夫の仕方について簡易的な教材を用いて学習する（E1、F1、F2、L1）。 ③予習（120分） 第4回目の授業で配布された資料を熟読してくる。 ④復習（120分） 閉眼片足立ち姿勢で姿勢保持がどれくらいの時間できるか行ってみる。
6	①授業テーマ 身体障がいの理解とスポーツ（視覚障がい）② ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、視覚障がいのある人が、どのようにスポーツを行うのか、ブラインドサッカーを取り上げ、実践できるようになる（E1、F1、F2、K2、L1）。人数が過多の場合には交代制とし、試合に参加していない学生は評価シート（実践や観察内容の記入）に記入をしながら観察する。 ③予習（120分） 第5回目の授業で配布された資料を熟読し、ブラインドサッカーを行う準備をする。 ④復習（120分） 評価シートを見返し、まとめを記入する（次週提出）。
7	①授業テーマ 身体障がいの理解とスポーツ（肢体不自由・内部障がい）① ②授業概要

	担当教員の実務経験を踏まえて、肢体不自由者や内部障がい者の主な特性を学び、その特性に配慮しながら安全にスポーツを実施できるように、基本的な知識内容を説明できるようになる（E1、F1）。適宜、視聴覚教材を用いる。また用器具の製作、利用方法、ペースメーカーなどについて簡易的な教材を用いて学習する（F1、F2）。 ③予習（120分） 第6回目の授業で配布された資料を熟読してくる。 ④復習（120分） 授業内容を振り返り、不明点がないか確認する。
8	①授業テーマ 身体障がいの理解とスポーツ（肢体不自由・内部障がい）② ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、肢体不自由の人が、どのようにスポーツを行うのか、模擬義足を装着した歩行または走行、スキップを取り上げ実践できるようになる（F1、F2、L1）。人数が過多の場合には交代制とし、歩行または走行をしていない学生は評価シート（実践や観察内容の記入）に記入をしながら観察する。 ③予習（120分） 第7回目の授業で配布された資料を熟読し、模擬義足での歩行（走行）を行う準備をする。 ④復習（120分） 評価シートを見返し、まとめを記入する（次週提出）。
9	①授業テーマ 身体障がいの理解とスポーツ（肢体不自由・内部障がい）③ ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、肢体不自由の人がどのようにスポーツを行うのか、競技用車いすを使用した車いすバスケットボールを取り上げ実践できるようになる（E1、F1、F2、L1）。人数が過多の場合には交代制とし、車いすバスケットボールをしていない学生は評価シート（実践や観察内容の記入）に記入をしながら観察する。 ③予習（120分） 第8回目の授業で配布された資料を熟読し、車いすバスケットを行う準備をする。 ④復習（120分） 評価シートを見返し、まとめを記入する（次週提出）。
10	①授業テーマ 身体障がいの理解とスポーツ（肢体不自由・内部障がい）④ ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、肢体不自由の人がどのようにスポーツを行うのか、競技用車いすを使用した車いすバドミントンを取り上げ実践できるようになる（E1、F1、F2、L1）。人数が過多の場合には交代制とし、車いすバドミントンをしていない学生は評価シート（実践や観察内容の記入）に記入をしながら観察する。 ③予習（120分） 第9回目の授業で配布された資料を熟読し、車いすバドミントンを行う準備をする。 ④復習（120分） 評価シートを見返し、まとめを記入する（次週提出）。
11	①授業テーマ 知的障がいの理解とスポーツ ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、知的障がいの主な特性を学び、その特性に配慮しながら安全にスポーツを実施できるように基本的な知識内容を説明できるようになる（E1、F1、F2）。適宜、視聴覚教材を用いる。 ③予習（120分） 第10回目の授業で配布された資料を熟読してくる。 ④復習（120分） 授業内容を振り返り、不明点がないか確認する。
12	①授業テーマ 精神障がいの理解とスポーツ ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、精神障がいの主な特性を学び、その特性に配慮しながら安全にスポーツを実施できるように基本的な知識内容を説明できるようになる（E1、F1、F2）。適宜、視聴覚教材を用いる。 ③予習（120分） 第11回目の授業で配布された資料を熟読してくる。 ④復習（120分） 授業内容を振り返り、不明点がないか確認する。

	13	①授業テーマ アダプテッド・スポーツとパラリンピック ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、生涯スポーツと競技スポーツの違いや関係性について説明できるようになる（E1、F1、F2、K2）。特に近年のパラリンピックにおける競技力向上はめざましいものがあり、競争性の高い競技会であることを説明できるようになる。第11回目から第13回目の授業内容を基に、小レポート（2回目）課題を実施します（次授業時にコメントを添えて返却します）。 ③予習（120分） 第12回目の授業で配布された資料を熟読してくる。 ④復習（120分） 2012年ロンドンパラリンピックはどのような点で高い評価を得たのか整理する。
	14	①授業テーマ 公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会 公認障がい者スポーツ指導者制度について ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、本制度における障がい者スポーツ指導員の役割や組織体系について説明できるようになる（E1、F1、F2、K2、L1）。視聴覚資料などを用いて実際の活動事例を観察する。 ③予習（120分） 第13回目の授業で配布された資料を熟読してくる。 ④復習（120分） 資格取得についての考えを整理する。
	15	①授業テーマ アダプテッド・スポーツのまとめ ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、アダプテッド・スポーツの授業で学んできた内容を総合的かつ体系的にまとめることができるようになる（E1、F1、F2）。 ③予習（120分） 第1回目から第14回目の授業で配布された資料を再読してくる。 ④復習（120分） これまでの授業内容を総合的に見返す。
関連科目	「アダプテッド・スポーツ演習 SCS 3616」（3年次前学期/後学期配当）	
教科書	改訂版 障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）、（公財）日本パラスポーツ協会／編、ぎょうせい（2023/03）、ISBN 978-4-324-11250-2	
参考書・参考URL	アダプテッド・スポーツの科学―障害者・高齢者のスポーツ実践のための理論、市村出版（2004/10）、ISBN 978-4-902109-01-6	
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 火曜日の4時限目と水曜日の5時限目に設定しています。指定時間以外でも対応しますので、その際には予め、アポイントメントをとることにより研究室で対応します。	
研究比率		

